

『エベーヌ弦楽四重奏団』2017年日本公演 出演者変更のお知らせ

この度10月に公演を予定しております「エベーヌ弦楽四重奏団」のヴィオラ奏者、アドリアン・ボワソーは、両手首の腱炎のため来日が不可能となりました。

同四重奏団は今年7月から8月初めまでの約1ヶ月に渡り、ヴィオラ奏者を変更してヨーロッパ公演を続けて参りました。しかし、その後もボワソーの症状の回復が思わしくなく、医師の診断により更に3ヶ月間の休養と治療が必要との結論に至り、新シーズン9月～10月についてもヴィオラ奏者を変更して演奏活動を行うこととなりました。

そのためこの度の公演では、ボワソーに代わり、カヴァティーヌ四重奏団(2013年バンフ国際弦楽四重奏コンクール第2位)、2016年エクサン・プロヴァンス音楽祭ライブ録音CD(ディアパゾン金賞)など、室内楽奏者として活躍するマリー・シレムがヴィオラ奏者を務めます。

なお、現時点で奏者交代に伴う演奏予定曲目に変更はございません。また、奏者交代によるチケットの払い戻しはいたしませんので、何卒ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

2017年8月19日

フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)

(C)Natacha Colmez



●マリー・シレム(ヴィオラ)Marie Chilemme,viola

1988年仏トゥールーズ生まれ、3才よりヴィオラを始める。2005年よりパリ国立高等音楽院にて学ぶ。08年から2013年までの毎年、小澤征爾スイス国際音楽アカデミーの受講生に選ばれ、小澤征爾をはじめ、パメラ・フランク、ロバート・マン、今井信子、原田禎夫等の指導を受ける。2010年にパリ国立高等音楽院卒業後、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学にてタベア・ツィンマーマンおよびアルテミス・カルテットに師事する。2012年カヴァティーヌ四重奏団を結成、同年9月にはハンブルグ国際室内楽コンクールで入賞、翌2013年8月にはカナダのバンフ国際弦楽四重奏コンクールで第2位となった。ヨーロッパ各地の著名な音楽祭にも招かれ、2016年のエクサン・プロヴァンス音楽祭でルノー・カピュソン、ゴージェ・カピュソン、ジェラルド・コセ、クレメンス・ハーゲン等と共演したブラームスの六重奏はライブ録音CDとしてリリースされ、ディアパゾン金賞(仏)を受賞した。(2017年8月現在)

PHILIA HALL